

### 昭和初期に建設されたモダンな橋梁たち

#### 大手橋、央橋なかつばし

公益社団法人土木学会関東支部  
茨城会理事兼調査研究部会長  
澤島 守夫

#### ■日本における近代橋梁建設の歴史

日本における近代橋梁建設の歴史は、明治政府の交通政策として、外国人技術者を招致し、欧米の土木技術を導入、全国鉄道網の整備を進めるなかで鉄道橋の建設から始まった。一方、道路橋は大正時代に入り産業の発展に伴い自動車が普及するまでは、必ずしも耐荷力が大きな橋梁は必要とせず、ほとんどの橋梁は木橋で間に合わせていた。

そのような中、一九二三（大正十二）年九月、関東大震災が起り、首都東京が壊滅、国家を挙げてその復興事業に乗り出す。その中核となった事業が隅田川架橋群の建設である。この建設には、

など九橋を一気に建設し、日本における橋梁建設技術の自立と飛躍的な発展を遂げさせた。

その後、実力をつけた技術者たちは、全国に赴任し、地方の橋梁の整備に邁進する。その一環として茨城県では、旧海門橋かいもんばし（鉄筋コンクリート製アーチ橋、昭和五年竣工、ひたちなか市・大洗町）や旧水府橋すいふぼ（ワーレントラス橋、昭和七年竣工、水戸市）が架設されるとともに、県における橋梁建設技術も発展し、これに続き、現在も使用される造形が美しく地域のシンボルとなっている水戸市の大手橋や常陸太田市の央橋が建設された。

#### ■大手橋

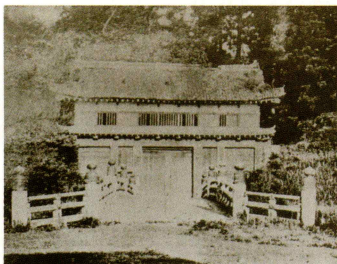
最新技術で江戸時代の姿に蘇よみがえった大手橋

初代の大手橋は、佐竹義宣よしかのが一五九一（天正十九）年水戸を領国経営の中心地と定め、太田城から水戸城に移り城郭の拡張を行った際、三の丸から二の丸への入口を大手と定め、大手門と同時に構築されたものである。しかし、木橋のため耐久性が低く江戸時代に幾多の架け替えが行われ（写真2）、水戸藩解体後の明治中期と大正初めにも架け替えられたがいずれも木橋のため老朽化して



(写真1) 大手橋および大手門(大手門は令和2年復元)

先行する鉄道建設で、技術の習得や伸長に努めてきた日本人技術者達を中心となつて携わり、架設地点の都市環境にふさわしい多様な形式の橋梁（永代橋えいたいばし（鋼製アーチ橋）、清州橋きよすけ（吊橋）



(写真2) 明治初期の大手橋(木橋)と大手門(大手門は明治7年撤去)(水戸市100年委員会「水戸百年」写真集P12)



しまった。

その大手橋が一九三五（昭和十）年に至り、待望の鉄筋コンクリート造りの永久橋に架け替えられた（写真1）。橋長二二・八メートル、幅六・一メートル、橋脚高九・九メートル、五千円の工費と四か月の工期をかけて竣工した。これまで大手橋が大手門と一体となつて水戸城の威厳を誇つてきた歴史を踏まえ、当時の最新技術で耐久性と造形の自由度が高い鉄筋コンクリート技術を使い、藩政時代の木橋の様式を継承して建設された。当時の架け替えを報じる新聞では、「モダンな橋として生まれ変わった大手橋―鉄筋コンクリートながら全くニッポンの様式―水戸は二の丸、三の丸新風景」と大きく報道している。

当時から市民の思いや歴史的景観を大切に社会資本の整備を進める姿勢は大変意義深い。

#### ■央橋

―山紫水明の地に画期的な造形美を誇る央橋―

央橋（写真3、4）は一九三七（昭和十二）年、水戸と奥州街道を結ぶ旧棚倉街道（現・国道三四九号）の里川に架設された、橋長三四・〇メートル、幅員六・〇メートルの鉄筋コンクリート製アーチ橋である。鉄筋コンクリート製のアーチ部が白く美しい大きな円弧を描き、周囲の風景から際立った存在である。

一般に鉄筋コンクリート製アーチ橋では、車がアーチの上を走る上路式という形式が多いが、央橋ではアーチの下部を通行する下路式として設計された珍しい橋である。この橋の構造は、あたかも弓のような形でアーチと路面を支える橋桁を閉合し一体構造としたもので、設計が複雑な上、施

工も難しい。

この形式の橋では、神奈川県（かんながら県）の国道一号「箱根の嶮」の入り口に当たる函嶺洞門（かしのいどうもん）の前後に千歳橋旭橋（ともに昭和八年竣工）が架設されている。これらは箱根路の近代化を象徴するとともに高度な鉄筋コンクリート技術を駆使して建設された我が国初期の道路構造物として国重要文化財に指定されている。

央橋は建設当時から山紫水明の地に画期的な造形美を誇り、棚倉街道の宿場町の面影が残る旧町屋宿の入り口に位置していることから、地域のラ

ンドマークとなつており、地元ではそのユニークな形から「めがね橋」の愛称で親しまれてきた。



（写真3）央橋（全景）



（写真4）央橋（橋軸方向から撮影）

#### ■大手橋 諸元

・所在地	水戸市三の丸
・構造等	鉄筋コンクリート製橋
・竣工年	1935(昭和10)年
・管理者	水戸市
・備考	土木学会選奨土木遺産

#### ■央橋 諸元

・所在地	常陸太田市町屋町、春友町
・構造等	鉄筋コンクリート製アーチ下路橋
・竣工年	1937(昭和12)年
・管理者	常陸太田市
・備考	国登録有形文化財 土木学会選奨土木遺産

#### （参考文献）

水戸市：「水戸市史」1963（昭和38）年／水戸市100年委員会：「水戸百年」写真集、茨城新聞社1989（平成元）年／常陸太田市：「常陸太田市史通史編下」1983（昭和58）年／本田稜寛：「箱根地区国道一号線施設群箱根山麓に設置された3つのゲート」土木学会誌1991-8